



組織論に「サシミの法則」というものがあるそうだ。組織というものは、おしなべて、組織をリードする人3割、それに従う人4割、やる気なしで動かない人3割、という3・4・3の構成になるといふ。

なるほど。天下の秀才を集めたはずの財務省や外務省でも、いつの間にかその比率だ(違ったらゴメンなさい)。あなたの会社はいかが？

この話が面白いのは、例えばどこかの会社がエリートだけ集めて、営業部とか企画部とかを作っても、3割は使いものにならなくなる点だ。

この手の組織論とか人間学では、「グッピー理論」が秀逸だ。龍角散の会長だった故・藤井康男氏の持ちネタだといふ。「知のヴァーリトワード」というホームページ

潮田 道夫



サシミとグッピー

シで紹介している。

グッピーというメダカみたいな魚。これを水槽で飼うと、餌を口にできない勝ち組と、できない負け組と平々に分かれる。勝ち組と負け組を、それぞれ分離して飼育すると、またおのおの勝ち組と負け組に二分される。

さて、この先がミソだ。勝ち組のなかの負け組と、負け組のなかではい上がってきた勝ち組とを一緒にすると、

後者が勝ってしまう。

藤井さんの経営論は知らないが、「成功体験」の重要性を指摘したもののようだ。それとどうだろう、私は「敗者復活」の大切さを感じる。

日本は社会が安定しているのはいいが、一度負けると、なかなか復活しにくい風土だ。だから、リスクの大きいベンチャー企業を起す人が出ず、活力で米国に後れをとる。ま、サシミのミ組には関係ない話ですがね。

(経済部)